

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第12回 道の駅探訪



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

私は様々なところに行くのが好きだ。当然、新聞、テレビ、インターネットで情報を調べることはあるが、その場に行った時に五感で感じる雰囲気はバーチャルな情報とは比較にならない。

また、「〇〇百選」というのにも弱い。一つ行ってみると、また他のところにも行きたくなる。その一つが「道の駅」だ。

皆さんも道の駅に行かれたことがあると思うが、休憩場所であり、観光情報を提供する場所でもあるが、地域を結び付ける場所でもあるのだ。

そして、その地域の特産物を売っている場合には、何と言っても安いし新鮮だ。野菜や果物であれば、収穫された直後に道の駅の売り場に並ぶので、他の所で買うのとは新鮮さが違うことを痛感する。

東北に赴任してから、最初の講演が気仙沼だったので、気仙沼について調べたところ、道の駅「大谷海岸」が震災を題材にしたアニメ映画にも出てくると知った。

このため、気仙沼の講演のネタにするため、講演の前にその道の駅に行ってみると、「スタンプラリー・ブック」が売ってあった。

しかも、今年の東北地方のスタンプラリーは、私の発令日の何と2日前に始まったばかりなのだ。そうすると、買わずにいられない。これは性分だ。もちろん、東北地方は面積が広いので、全部に行くことはほぼ不可能だ。

その後も様々な場所に見分に出かけると、近くにある道の駅に少し足を伸ばして、立ち寄るぐらいだった。

ところがである。そうして回っていると、色んなところに立ち寄れるようになってきたのだ。そうすると、日銀仙台支店の業務区域の宮城県、山形県、岩手県の道の駅を踏破したくなってきた。

また、悪い癖が出たのだ。

でも、これがなかなか難しい。特に、仙台に住んでいると、岩手県の北部は仙台から車で4時間もかかる。このままでは無理だと諦めかけていた時に、新幹線で岩手県北部まで行って、そこでレンタカーを借りれば、岩手県北部も回れることに気づいたのだ。

そうして、最後の方は、旅行の目的地がほぼ道の駅になったのだ(笑)。そうすると、その途中で名所旧跡、寺院、日帰り温泉、ワイナリーなどにも、遭遇できるのだ。こうしたところに立ち寄るのもまた楽しいし、おそらく道の駅巡りをしていると、もしかすると行かないようなところにも行けるのだ(道の駅巡りを正当化しているようですが)。

こうして、昨年10月には、宮城県18カ所、山形県21カ所、岩手県36カ所、合わせて75カ所の道の駅のすべてに訪れることができたのだ。この時には、何とも言えない達成感を味わった。

また、旅行会社が毎年実施している道の駅ランキング(2023年)には、東北地方の道の駅が何と4つ(あ・ら・伊達な道の駅、道の駅しちのへ、道の駅米沢、道の駅上品の郷)も入っていることも知った。

皆さん、「道の駅」巡りをしてみたいはいかがですか？

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任